

算定様式（E 様式）の作りかた

算定様式（E 様式）とは

排煙脱硫装置などを使用している施設について、脱硫効率を算定する際に使用します。
排煙脱硫装置などの稼働率や排出ガスの処理割合などを乗じて、補正後の脱硫効率を算定します。
入力の際は、44ページ「排出ガス測定的一般事項（E様式およびb様式共通）」をまずお読みください。

- A様式、C様式、D様式（a）の算定様式を作成時、必要に応じて作成する必要があります。
- 補正後の脱硫効率の算定 1 回につき 1 枚作成してください。
（例：年 6 回測定し、補正後の脱硫効率を算定した場合は、E 様式を 6 枚（6 回分）作成してください。）
- 脱硫効率の算定は、1 つの施設から排出される SOx 量に応じて、必要な測定回数が下記の通り異なります。

排出 SOx 量が 10 m³/h 以上の場合	2 か月に 1 回以上算定（測定）してください。
排出 SOx 量が 10 m³/h 未満の場合	年に 1 回以上算定（測定）してください。 例：年に 2 回測定した場合には、E 様式を 2 枚作成してください。
大気汚染防止法、電気事業法で SOx 量の常時測定義務がある場合	月に 1 回算定（測定）してください。 ● 数値は、常時測定を行い、1 か月間の測定値を平均したものを使用してください。

作成時の留意点

- Excel 雛型ファイルに入力する際の留意点
- Excel 雛型ファイルの黄色で塗られた項目（セル）が、入力していただきたい箇所です。
- 数字は、半角で入力してください。
- 数字のカンマ（,）は、自動で表示されます。（例：「1234567」と入力すると、「1,234,567」と表示されます。）
- 各セルの右上の「」マークにマウスポインターを移動させると、入力の際の留意点を表示します。

例： 補正後の脱硫効率の算定の過程を示す書類（E）

脱硫効率の算定式

工場・事業場名

工場・事業場名は、半角 100
(または、全角 50) 文字以下
で入力して下さい。

Excel 雛型ファイルの入力が全て完了したら

- 保存する前に、必ず **入力チェック** をクリックして、入力にもれや誤りがないかを確認してください。（55 ページ）
- 入力チェックが完了していない Excel 雛型ファイルをオンライン申告システムからアップロードしようとすると、エラーになり、送信できません。

E 様式（共通）

ヘッダー部と、「1. 一般事項」は、（イ）（ロ）（ハ）共通です。

脱硫効率の算定式

脱硫効率の算定式を「イ」「ロ」「ハ」から選択し、入力してください。
標準的硫黄分を使用して SOx 量を算定している場合は、必ず E 様式（イ）で計算してください。

- 脱硫前の燃原料から求めた SOx 量と、脱硫後の排出ガス中の SOx 濃度と、排出ガス量から脱硫効率を求める場合
→ E 様式（イ）で算定してください。（48 ページ）
- SOx 濃度と排出ガス量を、脱硫前と脱硫後で測定して、脱硫効率を求める場合
→ E 様式（ロ）で算定してください。（50 ページ）
- SOx 濃度と O₂ 濃度を、脱硫前と脱硫後で測定して、脱硫効率を求める場合
→ E 様式（ハ）で算定してください。（52 ページ）
E 様式（ハ）は、排出ガス量が測定できない場合の算定式です。

賦課金番号

申告書に入力されている汚染負荷量賦課金番号を入力してください。

申告書に入力した納付義務者名、工場・事業場名を入力してください。

ナンバー No.

E 様式の全使用枚数と通し番号です。
この例では、全 12 枚のうちの 1 枚目であることを表します。

Excel 雛型ファイルで様式を追加すると、自動的に No. が付与されます。

平成 XX 年度汚染負荷量賦課金
補正後の脱硫効率の算定の過程を示す書類（E）

賦課金番号 03309012

脱硫効率の算定式 (イ)

工場・事業場名 青空工業（株） 仙台工場

No. E- 01 枚目 12 全枚数

1. 一般事項		⑤ 脱硫方式		水酸化マグネシウム法	
① 関連する様式・番号	A-02/03	⑥ 施設最大排出ガス量	16,000	m³N	
② 測定機関（又は部門）	NS 分析センター	⑦ 脱硫装置処理能力	18,000	m³N	
③ 脱硫対象施設名	2号ボイラー	⑧ 入口 SOx 濃度	1,100	⑨ 出口 SOx 濃度	110
	種類 使用量	⑩ 脱硫効率（設計値）	30		
	C 重油 980 L/h	⑪ 脱硫装置稼働開始年月日	昭和 60 年 4 月 10 日		
④ 最大燃原料使用量	L/h	⑫ 脱硫装置の制作メーカー	（株）DS 工業		
	L/h				
2. 測定及び算定内容					
(1) 共通事項					
⑬ 測定		⑭ 適用期間中における	種類	使用量	
			C 重油	636	L/h

1. 一般事項

- ① 関連する様式・番号※：この様式に関連する算定様式の番号を入力してください。
 - ② 測定機関（または部門）※：排出ガスの測定機関（自社測定の場合は部門）などの名称を入力してください。
 - ③ 脱硫対象施設名※：脱硫の対象となるばい煙発生施設などの施設名を入力してください。
 - ④ 最大燃原料使用量：使用量の単位を選択し、脱硫対象施設（③）の最大燃原料使用量を入力してください。
 - ⑤ 脱硫方式：脱硫装置の脱硫方式を入力してください。
 - ⑥ 施設最大排出ガス量：脱硫対象施設（③）の最大排出ガス量（湿りガス量）を入力してください。
 - ⑦ 脱硫装置処理能力：脱硫装置の処理能力（湿りガス量）を入力してください。
 - ⑧ 脱硫効率（設計値）：脱硫装置の脱硫効率の設計値を入力してください。
 - ⑨ 脱硫装置稼働開始年月日：脱硫装置が稼働開始した年月日を入力してください。
 - ⑩ 脱硫装置の制作メーカー：脱硫装置を制作したメーカー名を入力してください。
- 入力必須項目です。
- 2 枚以上作成する場合、2 枚目以降の「1. 一般事項」は変更が無ければ記入する必要はありません。

添付書類

● 算定様式（E 様式）の作りかた

E 様式（イ）

脱硫前の燃原料から求めたSOx量と、脱硫後の排出ガス中のSOx濃度と、排出ガス量から脱硫効率を求める場合

● 下図の内容は、SOx濃度測定時の記載例です。
SO₂濃度測定の場合には、50ページ「2.(3)b 脱硫装置後（出口）のSOx量」の記載例に倣って、「2.(3)b 脱硫装置後（出口）のSOx量」の数値を入力してください。

(イ)を選択してください。(47ページ)

作成のしかたは、47ページをご覧ください。

平成XX年度汚染負荷量賦課金
補正後の脱硫効率の算定の過程を示す書類（E）

賦課金番号
03309012

脱硫効率の算定式
(イ)

工場・事業場名
青空工業（株） 仙台工場

01 枚目
12 全枚数

1. 一般事項

①関連する様式・番号
A-02/03

②測定機関（又は部門）
NS分析センター

③脱硫対象施設名
2号ボイラー

④脱硫方式
水酸化マグネシウム法

⑤施設最大排出ガス量
16,000 m3N

⑥脱硫装置処理能力
18,000 m3N

⑦最大燃原料使用量
980 L/h

⑧脱硫効率（設計値）
1,100

⑨脱硫装置稼働開始年月日
昭和60年4月10日

⑩脱硫装置の制作メーカー
(株) DS工業

2. 測定及び算定内容

(1)共通事項

①測定年月日
平成XX年X月X日

②排出ガス量
平成XX年X月X日

③脱硫適用期間
平成XX年X月～X月

④適用期間中における平均燃原料使用量

⑤種類
C重油

⑥使用量
636 L/h

(2)燃原料から求めるSOx量（Sf）

項目

①燃原料の種類
C重油

②測定時の使用量
653 L/h

③密度
0.944 g/cm3

④含有硫黄分
2.28 %

⑤SOx量
9.838

(3)排出ガス測定から求めるSOx量

項目

①SOx濃度測定値
濃度測定値 (ppm)

②平均SOx濃度
(ppm)

③SOx濃度への補正係数
(有効数字3桁)

④補正SOx濃度
(ppm)

⑤SOx濃度測定時のO₂濃度測定値 (%)

⑥SOx濃度測定時の平均O₂濃度 (%)

⑦排出ガス量測定値(乾き)
(m3N/h)

⑧平均排出ガス量
(m3N/h)

⑨排出ガス量測定時のO₂濃度測定値 (%)

⑩排出ガス量測定時の平均O₂濃度 (%)

⑪補正排出ガス量
(m3N/h)

⑫SOx量
(m3N/h)

⑬SOx濃度測定法
イオンクロマトグラフ法

⑭採取ガス量(L)
20

(4)脱硫効率及び脱硫効率の補正

項目

①脱硫効率
(%)

②施設の稼働時間数
(h)

③脱硫装置の稼働時間数
(h)

④施設の排出ガス量
(m3N/h)

⑤脱硫装置の処理ガス量
(m3N/h)

⑥その他の補正係数
(有効数字3桁)

⑦補正後の脱硫効率
(%)

⑧測定値又は計算値等
89.01

1416

1345

9569

9569

(有効数字3桁)

84.54

入力チェック

算定様式の追加

算定様式の削除

印刷

エクセル保存

前年度データ複写

終了

2. 測定及び算定内容（E様式（イ））

(1)共通事項
①測定年月日^{※1}：SOx濃度と排出ガス量を測定した年月日を入力してください。
②脱硫適用期間^{※1}：この様式で算定した補正後の脱硫効率を適用する期間を入力してください。
(必ず、SOx濃度測定などを実施した「月」を含めてください。)
③適用期間中における：適用期間中において、脱硫対象施設で使用した燃原料の種類と1時間当たりの平均平均燃原料使用量 使用量^{※2※3}を入力してください。
※1: 入力必須項目です。

(2)燃原料から求めるSOx量（Sf）
「① 燃原料の種類」、「② 測定時の使用量（小数点以下切り捨て）^{※2※3}」、「③ 密度（小数点4けた目を切り捨て、3桁まで）」、「④ 含有硫黄分（小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値）」を入力してください。
☑「① 燃原料の種類」～「④ 含有硫黄分」を入力すると、「⑤ SOx量」、「⑥ 合計SOx量」が自動的に計算されます。
☑「⑤ SOx量^{※4}」、「⑥ 合計SOx量^{※4}」を計算して入力してください。（計算のしかたは、56ページをご覧ください。）

(3)排出ガス測定から求めるSOx量
●「a脱硫装置前（入口）のSOx量」の欄は、使用しません。「b脱硫装置後（出口）のSOx量」の欄を入力してください。
●SOx濃度
①SOx（またはSO₂）濃度測定値：「項目」欄で、濃度を測定した項目を、SOx（またはSO₂）から選択してください。
①で[SOx]を選択した場合：濃度測定値の欄に、全ての測定値を入力してください。
①で[SO₂]を選択した場合：濃度測定値の欄には、何も入力しません。
②平均SOx（またはSO₂）濃度^{※5※6}：☑SOx（またはSO₂）濃度測定値の平均値を入力してください。
③SOx濃度への補正係数^{※5}：①で[SO₂]を選択した場合は、補正係数（57ページ）を入力してください。
④補正SOx濃度^{※5※6}：☑①で[SOx]を選択した場合：②の数値を入力してください。
①で[SO₂]を選択した場合：②×③の数値を入力してください。

●SOx測定時のO₂濃度
⑤SOx濃度測定時のO₂濃度測定値：①で[SOx]を選択した場合：SOx濃度測定時の全てのO₂濃度測定値を入力してください。
①で[SO₂]を選択した場合：適用期間中のO₂濃度の平均値を入力してください。
⑥SOx濃度測定時の平均O₂濃度^{※5※6}：☑「⑤SOx濃度測定時のO₂濃度測定値」の平均値を入力してください。
●排出ガス量測定時のO₂濃度および排出ガス量
⑦排出ガス量測定値(乾き)：排出ガス（乾きガス）の全ての測定値を入力してください。
⑧平均排出ガス量^{※4※7}：☑「⑦排出ガス量測定値(乾き)」の平均値を入力してください。
⑨排出ガス量測定時のO₂濃度測定値：排出ガス測定時の全てのO₂濃度の測定値を入力してください。
⑩排出ガス量測定時の平均O₂濃度^{※5※7}：☑「⑨排出ガス量測定時のO₂濃度測定値」の平均値を入力してください。
⑪補正排出ガス量^{※4※6}：☑補正の必要がある場合は、計算して入力してください。（58ページ）
SOx（またはSO₂）濃度測定時と排出ガス量測定時のO₂濃度が異なる場合は、必ず補正をしてください。補正の必要がない場合は、「⑧平均排出ガス量」の数値を入力してください。
⑫SOx量^{※4※6}：☑SOx量を計算して、入力してください。（58ページ）

●硫酸化物濃度の測定
⑬SOx濃度測定法：①で[SOx]を選択した場合：JIS K 0103のいずれか該当する測定法を入力してください。
①で[SO₂]を選択した場合：JIS B 7981のいずれか該当する測定法を入力してください。
⑭採取ガス量：①を測定したときの採取ガス量（吸引ガス量）を入力してください。

(4)脱硫効率及び脱硫効率の補正
①脱硫効率：☑脱硫効率を計算し、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値(%表示)を入力してください。（計算のしかたは、58ページをご覧ください。）
②施設の稼働時間数：脱硫装置の適用期間における施設の稼働時間(1時間未満切り捨て)を入力してください。
③脱硫装置の稼働時間数：脱硫装置の適用期間における脱硫装置の稼働時間(1時間未満切り捨て)を入力してください。
④施設の排出ガス量：施設の排出ガス量を入力してください。
⑤脱硫装置の処理ガス量：脱硫装置の処理ガス量を入力してください。
⑥その他の補正係数^{※5}：その他、何らかの補正係数がある場合、入力してください。
⑦補正後の脱硫効率^{※7}：施設と脱硫装置の稼働時間または排出ガス量が異なるなどの場合は、脱硫効率(%)を補正し、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値(%表示)を入力してください。（計算のしかたは、59ページをご覧ください。）補正する必要がない場合は、①の数値を入力してください。

※2：該当する単位を選択してください。
※3：1時間当たりの量を入力してください。
※4：有効数字4けた（5けた以下は切り捨て）
※5：有効数字3けた（4けた以下は切り捨て）
※6：☑☑自動的に計算されます。
※7：☑☑自動計算されませんので、適切な数値を入力してください。

48

☑☑操作のしかたは、54ページをご覧ください。
☑用紙申告の場合は、この位置に脱硫過程の簡略図を描いてください。（45ページ）
2枚目以降には、変更が無ければ記入する必要はありません。

添付書類

●算定様式（E様式）の作りかた

49

E 様式（ハ）

SOx 濃度とO₂濃度を、脱硫前と脱硫後で測定して、脱硫効率を求める場合

● 下図の内容は、SO₂濃度測定時の記載例です。
SOx濃度測定の場合には、48ページ「2.(3)b 脱硫装置後（出口）のSOx量」の記載例に倣って、「2.(3)a 脱硫装置前（入口）のSOx量」および「2.(3)b 脱硫装置後（出口）のSOx量」の数値を入力してください。

(ハ)を選択してください。(47ページ)

作成のしかたは、47ページをご覧ください。

平成XX年度汚染負荷量賦課金
補正後の脱硫効率の算定の過程を示す書類（E）

賦課金番号
033090112

脱硫効率の算定式
(ハ)

工場・事業場名
青空工業（株） 仙台工場

01 枚目
01 全枚数

1. 一般事項

①関連する様式・番号
A-03/04, 04/04

②測定機関(又は部門)
NS分析センター

③脱硫対象施設名
廃棄物焼却炉

④脱硫方式
苛性ソーダ法

⑤施設最大排出ガス量
95,000 m3N

⑥脱硫装置処理能力
120,000 m3N

⑦脱硫効率(設計値)
1,200 80 90

⑧脱硫装置稼働開始年月日
昭和XX年X月X日

⑨脱硫装置の制作メーカー
CC工業

⑩最大燃原料使用量
A重油 980 L/h
排水汚泥 1,000 L/h

2. 測定及び算定内容

(1)共通事項

①測定
年月日
排出ガス量
未測定

②脱硫適用期間
平成XX年X月

③適用期間中における
平均燃原料使用量

種類
A重油 856 L/h
排水汚泥 890 L/h

(2)燃原料から求めるSOx量(Sf)

項目

①燃原料の種類

②測定時の使用量

③密度

④含有硫黄分

⑤SOx量

測定値又は
計算値等

L/h

g/cm3

%

L/h

g/cm3

%

L/h

g/cm3

%

L/h

g/cm3

%

L/h

g/cm3

%

L/h

g/cm3

%

⑥合計SOx量(有効数字4桁) Sf=

(3)排出ガス測定から求めるSOx量

項目

濃度測定値 (ppm)

a 脱硫装置前(入口)のSOx量

b 脱硫装置後(出口)のSOx量

①SO₂

濃度測定値 (ppm)

(有効数字3桁)

1050

(有効数字3桁)

16

②平均SO₂濃度

(ppm)

(有効数字3桁)

1.03

(有効数字3桁)

1.03

③SOx濃度への補正係数

(有効数字3桁)

1.03

(有効数字3桁)

1.03

④補正SOx濃度

(ppm)

(有効数字3桁) Si=

1080

(有効数字3桁) Se=

16.4

⑤SOx濃度測定時のO₂濃度測定値(%)

(有効数字3桁) Oi=

6.7

(有効数字3桁) Oe=

7.2

⑥SOx濃度測定時の平均O₂濃度(%)

(有効数字3桁) Oi=

6.7

(有効数字3桁) Oe=

7.2

⑦排出ガス量測定値(乾き)

(m3N/h)

(有効数字4桁)

⑧平均排出ガス量

(m3N/h)

(有効数字4桁)

(有効数字4桁)

⑨排出ガス量測定時のO₂濃度測定値(%)

(有効数字3桁)

(有効数字3桁)

⑩排出ガス量測定時の平均O₂濃度(%)

(有効数字3桁)

(有効数字3桁)

⑪補正排出ガス量

(m3N/h)

(有効数字4桁) Vi=

(有効数字4桁) Ve=

⑫SOx量

(m3N/h)

(有効数字4桁)

(有効数字4桁)

硫黄酸化物濃度の測定

⑬SOx濃度測定法

⑭採取ガス量(L)

⑮SOx濃度測定法

⑯採取ガス量(L)

赤外線吸収法

赤外線吸収法

(4)脱硫効率及び脱硫効率の補正

項目

測定値又は計算値等

①脱硫効率

(%)

(小数点以下2桁)

98.42

②施設の稼働時間数

(h)

720

③脱硫装置の稼働時間数

(h)

720

④施設の排出ガス量

(m3N/h)

113000

⑤脱硫装置の処理ガス量

(m3N/h)

113000

⑥その他の補正係数

(有効数字3桁)

⑦補正後の脱硫効率

(%)

(小数点以下2桁)

98.42

入力チェック

算定様式の追加

算定様式の削除

印刷

エクセル保存

前年度データ複写

終了

(2)燃原料から求めるSOx量
何も入力しません。

2. 測定及び算定内容（E様式（ハ））

(1)共通事項

- ①測定年月日^{※1}：SOx濃度と排出ガス量を測定した年月日を入力してください。
- ②脱硫適用期間^{※1}：この様式で算定した補正後の脱硫効率を適用する期間を入力してください。
(必ず、SOx濃度測定などを実施した「月」を含めてください。)
- ③適用期間中における：適用期間中において、脱硫対象施設で使用した燃原料の種類と1時間当たりの平均燃原料使用量 使用量^{※2※3}を入力してください。
※1： 入力必須項目です。

(3)排出ガス測定から求めるSOx量

脱硫前の数値：下記にしたがって、「a脱硫装置前（入口）のSOx量」の欄に入力してください。

脱硫後の数値：下記にしたがって、「b脱硫装置後（出口）のSOx量」の欄に入力してください。

● SOx 濃度

- ①SOx (またはSO₂) 濃度測定値：「項目」欄で、濃度を測定した項目を、SOxまたはSO₂から選択してください。
 - ①で[SOx]を選択した場合：濃度測定値の欄に、全ての測定値を入力してください。
 - ①で[SO₂]を選択した場合：濃度測定値の欄には、何も入力しません。
- ②平均SOx (またはSO₂) 濃度^{※5※6}： SOx (またはSO₂) 濃度測定値の平均値を入力してください。
- ③SOx濃度への補正係数^{※5}：①で[SO₂]を選択した場合は、補正係数(57ページ)を入力してください。
- ④補正SOx濃度^{※5※6}： ①で[SO₂]を選択した場合：②×③の数値を入力してください。
①で[SOx]を選択した場合：②の数値を入力してください。

● SOx測定時のO₂濃度

- ⑤SOx濃度測定時のO₂濃度測定値：①で[SOx]を選択した場合：SOx濃度測定時の全てのO₂濃度測定値を入力してください。
①で[SO₂]を選択した場合：適用期間中のO₂濃度の平均値を入力してください。
- ⑥SOx濃度測定時の平均O₂濃度^{※5※6}： 平均値(「⑤SOx濃度測定時のO₂濃度測定値」と同じ数値)を入力してください。

● 排出ガス量測定時のO₂濃度および排出ガス量

- ⑦排出ガス量測定値(乾き)：何も入力しません。
- ⑧平均排出ガス量：何も入力しません。
- ⑨排出ガス量測定時のO₂濃度測定値：何も入力しません。
- ⑩排出ガス量測定時の平均O₂濃度：何も入力しません。
- ⑪補正排出ガス量：何も入力しません。
- ⑫SOx量：何も入力しません。

● 硫黄酸化物濃度の測定

- ⑬SOx濃度測定法：①で[SOx]を選択した場合：JISK0103のいずれか該当する測定法を入力してください。
①で[SO₂]を選択した場合：JISB7981のいずれか該当する測定法を入力してください。
- ⑭採取ガス量：①を測定したときの採取ガス量(吸引ガス量)を入力してください。

(4)脱硫効率及び脱硫効率の補正

- ①脱硫効率： 脱硫効率を計算し、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値(%表示)を入力してください。(計算のしかたは、58ページをご覧ください。)
- ②施設の稼働時間数：脱硫装置の適用期間における施設の稼働時間(1時間未満切り捨て)を入力してください。
- ③脱硫装置の稼働時間数：脱硫装置の適用期間における脱硫装置の稼働時間(1時間未満切り捨て)を入力してください。
- ④施設の排出ガス量：施設の排出ガス量を入力してください。
- ⑤脱硫装置の処理ガス量：脱硫装置の処理ガス量を入力してください。
- ⑥その他の補正係数^{※5}：その他、何らかの補正係数がある場合、入力してください。
- ⑦補正後の脱硫効率^{※7}：施設と脱硫装置の稼働時間または排出ガス量が異なるなどの場合は、脱硫効率(%)を補正し、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値(%表示)を入力してください。(計算のしかたは、59ページをご覧ください。)補正する必要がない場合は、①の数値を入力してください。

※2：該当する単位を選択してください。 ※5：有効数字3けた(4けた以下は切り捨て)
※3：1時間当たりの量を入力してください。 ※6： 自動的に計算されます。
※4：有効数字4けた(5けた以下は切り捨て) ※7： 自動計算されませんので、適切な数値を入力してください。

操作のしかたは、54ページをご覧ください。

用紙申告の場合は、この位置に脱硫過程の簡略図を描いてください。(45ページ) 2枚目以降には、変更が無ければ記入する必要はありません。

添付書類

● 算定様式（E 様式）の作りかた

52

53